

研究背景

生成 AI は使用する人々の作業効率を向上させる。しかし、幾つかの芸術分野、その中でも特に音楽分野において音楽生成 AI 台頭は人の作曲活動の代替となり大きな脅威になると言われている。既存研究では、AI が作曲した音楽への評価におけるバイアスの存在を明らかにしている。しかし、統一的な枠組みの中で人と AI それぞれの楽曲を比較し分析しているものはない。

研究目的

本研究は、実験のために作曲された 2 つの楽曲を用いて聴き分けや評価の違いを分析する。リサーチクエスションとして「人は人と AI による楽曲を各々聴き分ける事が出来るのか、そして、どちらがより好まれるか」、仮説として「事前情報に関わらず人は人による楽曲を聴き分ける事ができ、AI による楽曲に比べ評価が高くなる」を設定し、その実証を行った。

研究方法

18~24 歳までの 109 人を対象に Control 群(2 曲に関する事前情報無し)と Treatment 群(2 曲に関する事前情報としてどちらかは人による作曲、片方は AI による作曲)によるランダム化比較実験を実施した。

分析結果

統計分析した結果、両群ともに約 60%の被験者が人と AI の楽曲を聴き分けることができていた。また、2 曲を比較して評価させると約 80%の被験者が人の楽曲を好んでおり、そちらの楽曲の方が労力を費やして作られた、そして、それに伴って楽曲の評価も向上する傾向が示された。

考察・結論

人の楽曲は AI のものよりも好まれ、過半数以上の人々が人と AI の楽曲を聴き分ける事が示されたことから、生成 AI に人の作曲活動が代替される可能性は現時点において低いと示唆された。